



通信

HP 学校だより
R4. 1. 7
NO. 34
文責 伊藤美佳

さあ、さらに成長する「3学期」が始まります

新年あけまして、おめでとうございます。

昔の日本の呼び方で1月を「睦月（むつき）」と言います。「睦び月（むつびつき）」を略した呼び方です。なぜ1月を「睦月」というのでしょうか。「睦ぶ（むつぶ）」とは「仲良くすること」という意味です。新年を祝って家族や親戚が集まり、仲良くする月という意味から「睦月」と呼ばれるようです。

「仲良くする」ことは、大切なことです。しかし、人は一人一人みんな違うので、意見や考え方が違うのは当たり前です。では、違う考えや意見の人とどうやって仲良くできるのでしょうか。1つの方法として、まず相手の考えや意見をしっかりと聞きます。分からないことは分かるまで尋ねます。その後、自分も相手も「これならば」と思えるところまで話をします。これを「**折り合いをつける**」と言います。自分のことだけでなく、相手の意見も尊重し、両方が歩み寄ることで気持ちよく生活できます。きっと4月に学級の目標（級訓）を決めた時、「折り合いをつけた」のではないのでしょうか。みんなで考え、その考えの1つ1つが生きるように決めた級訓をふり返り、さらに成長する時期が3学期です。3学期は、6年生が48日、1～5年生は51日です。48、51日しかない、でも48、51日もあると考え、豊坂っ子みんなで目標に向かって進んでいきましょう。それを先生たちは、心より応援しています。

さて、今年の干支の虎には「虎に翼」ということわざがあります。「もともと力のある者に、さらに力がそなわること。」を意味することわざで、「鬼に金棒」と同じ意味です。まずは、自分で決めたことをやり切って「虎」になりましょう。その後、ふり返りをし、次の目標を決めて努力しましょう。きっと、「翼のある虎」になり、更に大きく成長できる年となることでしょう。

さあ、次の学年に向けて「あこがれいっぱい」の豊坂っ子となれるように、そして、新型コロナウイルス感染症に気をつけて、元気に過ごしましょう。



=1月7日に「七草粥（ななくさがゆ）」をいただく=

1月7日に「春の七草」を入れた粥を食べると、邪気（じゃき）をはらい、無病息災（むびょうそくさい）が得られると伝わっています。古くは、出たばかりの七草の芽を食べることで、新しい生命力を身につけようと願ったものだそうです。ぜひ、食べてみてください。

ところで、「春の七草」を知っていますか？ぜひ覚えて、身の回りで見つけてみるのも楽しいですよ。

セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ

※ゴギョウ＝ハハコグサ スズナ＝カブ スズシロ＝ダイコン